授業科目名	応用行動分析学	単位数	2
担当教員名	三田地　真実・青木　康彦	担当形態	オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎の三つの約束のもと、実際に多様な人々や生命に対してどのような振る舞いをすれば良いのか、問題となっている人々の行動とはどのように解決すれば良いのか、という問いに対して、人を含めた生物個体の行動がどのような原理で形成されているのかを追及する学問分野である応用行動分析学を学ぶことで、理念や理想だけで先の問いに立ち向かうのではなく、具体的な行動レベルでの解決策を見出すことができるようになる。

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、応用行動分析学について実践的に学修することを大きな目的とする。本授業を受講した後に修得できる具体的な行動目標は以下の通りである。

（１）心理学の一分野である行動分析学の根源的問い「人間はなぜそのように行動するのか？」に対して、人間の行動は「意識」によって制御されているのではなく、「結果（後続事象）による選択（淘汰）」(Skinner、1981）であることを理解できる。

（２）ＡＢＡの基本原理（強化の原理、消去の原理など）を理解できる。

（３）ＡＢＡの実験パラダイム（シングルケースデザイン）を理解できる。

（４）ＡＢＡの基本原理を適用して、様々な問題に関わる人間行動（自分の行動を含めて）の制御要因についての仮説を立てられる。特に、子どもの問題行動について ABA の基本原理から理解できる。

（５）上記の仮説に基づいて、具体的な介入方法（問題解決の方法）を立案・実施できる。

授業の概要

本授業では、人間行動の原理について、心理学の一分野である、応用行動分析学(Applied Behavior Analysis、以下ＡＢＡと略す)の基本原理を理解し、子どもの問題行動を含め、様々な問題にかかわる人間の行動を科学的に理解すること、及び、ＡＢＡの実験方法である、シングル・ケース・デザイン（単一事例実験計画法）について理解し、実際の様々な問題に関連する人間行動の変容について指導介入を行うことができるようにすることを目標とする。

具体的には「人間はなぜそのように行動するのか？」という科学的な原理を理解し、その原理に基づいた問題解決への方策を立案できるということである。本授業では、B.F.Skinner によって体系化された行動分析学を人間行動に応用してきている、応用行動分析学の基礎原理を学ぶことで、具体的な子どもの問題行動などの事例についても科学的な根拠を持った指導方法の立案・実施ができる知識と技術を体得する。

授業計画
第１回：応用行動分析学の基礎（１）ＡＢＣフレームで行動を観察する
第２回：応用行動分析学の基礎（２）機能的に行動を理解する
第３回：指導の意味を考える（１）指導の意味・意義を理解する
第４回：指導の意味を考える（２）指導の具体的な目標・基準を理解する
第５回：具体的な行動の観察、ターゲット行動の決定
第６回：行動の原理（１）正の強化・負の強化
第７回：行動の原理（２）正の弱化・負の弱化
第８回：指導の実際（１）先行子操作
第９回：指導の実際（２）環境調整
第１０回：指導の実際（３）プロンプト・フェーディング
第１１回：指導の実際（４）時間遅延法
第１２回：指導の手続きの作成と記録の取り方、指導効果の判定法（意思決定の仕方）
第１３回：ABA を活用する（１）スクールワイド PBS（ポジティブな行動支援）の実際
第１４回：ABA を活用する（２）問題行動への対処の仕方
第１５回：子どもの視点で支援のネットワークを作るという意味・意義
定期試験

スクーリングでの学修内容
スクーリングでは、応用行動分析学の基本的な理論背景から、具体的な指導へのステップについて、事例を紹介しながら学ぶ。グループ討議や演習を行う。
（第１回から第１５回全ての内容を横断的に含む。）

教科書
（１）三田地　真実・岡村　章司（２０１９）『保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック―子どもの行動を「ありのまま観る」ために』金剛出版
（２）ロバート・Ｅ・オニール他　著　三田地　真実・神山努　監訳(２０１７)『子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック』金剛出版

参考文献
（１）若林上総・半田健・神山務・加藤哲文（2020)『高校ではじめるスクールワイド PBS―階層的な校内支援体制整備を目指して―』ジアース教育新社
（２）石黒康夫・三田地真実（2015)『参画型マネジメントで生徒指導が変わる―「スクールワイドＰＢＳ」導入ガイド 16 のステップ』図書文化
（３）ミミ・ハイネマン他　著　三田地真実　監訳（2014)『子育ての問題をＰＢＳで解決しよう！』金剛出版
（４）Ｄ・Ａ・クローン他 著 野呂文行・大久保賢一・佐藤美幸・三田地真実 訳（2014)『スクールワイドＰＢＳ－学校全体で取り組むポジティブな行動支援』二瓶社
（５）三田地真実 訳『リサーチから現場へ　シリーズ全８巻』学苑社
（６）Ｒ.Ｇ.ミルテンバーガー　著　園山繁樹・野呂文行・渡部匡隆・大石幸二　訳(2006)『行動変容法入門』二瓶社
（７）スキナー著作刊行会（2019).『B.F.スキナー重要論文集 Ⅰ～心理主義を超えて～』勁草書房
（８）スキナー著作刊行会（2020).『B.F.スキナー重要論文集Ⅱ～行動の哲学と科学を樹でる

～』勁草書房 （９）スキナー著作刊行会（2021).『B.F.スキナー重要論文集Ⅲ～社会と文化の随伴性を設計する～』勁草書房 （１０）F.B.スキナー（著）坂上貴之・三田地真実（訳）『スキナーの徹底的行動主義～20 の批判に答える～』誠信書房　2022 年
学生に対する評価 スクーリング評価（２５％)、レポート評価（２５％)、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。